

# 白門経友会

## 卒業おめでとう

—みなさんの新たな船出によせて—

白門経友会会長・経済学部教授 松丸 和夫



二〇一二年の日本列島は厳しい寒さと豪雪に見舞われて始まりました。

昨年は、三月一日の東日本大震災の影響で卒業式典が中止となりました。当たり前前のできることを喜びましょう。同時に、被災地の皆様の悲しみや苦しみに思いを馳せましょう。大震災の教訓に

学ぶこと、これは私たちの責務だと考えます。

去年の夏、みなさんはそれぞれの課題に向かつて、本当に汗まみれになって奮闘されていたのではないのでしょうか。早々と企業から採用内定をもらった人も、公務員採用試験の本番を控え、追い込みで休む暇もなく机に向かつていた人もいます。企業訪問や最終面接で、焦りを感じながら満員電車で揺られ続けた人もいます。なかなか内定が出ず、卒業後の展望を失い、心が折れ、意欲をなくした人はいませんか。

二〇一二年の春に大学を卒業する皆さんの世代は、過去最高の円高と企業

業績の低迷に直面しながら、将来の進路を模索したことでしょう。大学を卒業するけれど、まだ今後の予定が立っていない人、素直に喜べない心境の人がいることを私たちは知っています。

それでも私は敢えて言います、卒業おめでとう。大学を卒業すれば、みなさんはもはや学生ではない。でも人生には完全な完成もないのですから、みなさんの新しいスタートを喜んで送り出したい。それが皆さんの母校となる中央大学関係者の本音です。そして、またいつでも母校に「元気でもどつておいで」と呼びかけた気持ちです。

よく社会人になると学生の時のように甘くはない、と警句が発せられます。現実の社会には法律や常識、意欲や善意だけでは解決しない問題がたくさんあります。問題を解決するために皆さんのこれまでの経験と知識を総動員して下さい。でも、一人だけで悩み、一人で立ち向かおうとしても手強い問題ばかりです。そんなときこそ、これまでの人生で得た友人や先輩、そして大学教職員に相談してみましよう。

白門経友会は、第一に経済学部の卒業生の集まりです。第二に、現役の学生も会員です。会費は頂きませんが、いろいろな行事等で卒業生である学員と交流することができます。第三に、経済学部の教職員も構成員になっています。二〇〇九年の六月に会長に就任して以来、こうした白門経友会の構成・成り立ちのありがたさを折に触れ実感しています。

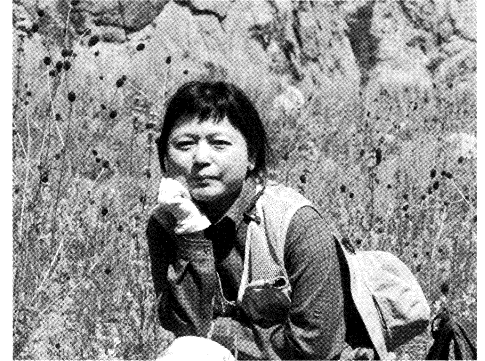
人間は一人では生きられない。一人ではなかなか強くなれない。だからこそ、白門経友会は緩やかなつながり結びつきを大事にしながら、現役学生から卒業生の大先輩までを包摂する組織としてこれまで二〇余年の歴史を継続してきました。

この度ご卒業される新学員のみなさん、母校中央大学と経済学部を誇りを持ち、そして愛して下さい。そしていつでも、「ただいま」と元気な姿を私たちにを見せて下さい。白門経友会は、いつでもみなさんのそばにいて、お役に立てるよう努力します。元気でいてらっしゃい。



# 2つの経済学部ビオトープ

黒須詩子 (経済学部・教授)



経済学部は、中央大学創立125周年企画として、多摩キャンパスの生態系の保全・復元を目的とした2つのビオトープを設置しました。施工は2010年11月1日から11月10日にかけて行われました。広大といって良い多摩キャンパス(51万平方メートル)は、八王子の典型的な丘陵地帯に造られたのですが、起伏の多い景観が美しく、8カ

所も自然に水の噴出している場所があります。湧水は丘の頂上から浸透してくる雨水と樹木が蓄えた水がゆっくり降りてきたものです。水の湧き出るところは、連光寺互層とよばれる第三紀末から第四紀の初めに堆積した地層ですが、標高125mくらいの場所です、泥層を基底とした砂礫層を水が移動しています。2カ所を選び、30・50cmの深さまで掘って木杭を打ち、池にしました。施工前は落ち葉と泥で埋まっていたが、施工後は、細い流れとはいえ、いつも絶えることなく水が流れ出ています。一つは、「滝坂湧水」といって正門からといって右側の桜広場の奥にあります。もう一つは、「大谷戸北湧水」というのですが、こちらはテニスコートの上であり、キャンパス創設時からある小川の水源の一つとなっています。

2つのビオトープは、経済学部が継続して管理するものとし、実行委員会(経済学部教員11名を含む)を中心に少なくとも年に一度、公開の観察会を開く、水温の測定をする、等の活

動を行って来ました。先に述べたとおり、ビオトープ設置の目的は、元からある湧水を活かすこと、また、多摩キャンパスの潜在的な生物多様性を復元させることです。池が完成してからいろいろな生物が戻ってくるのを心待ちにしていきましたが、1年間でキャンパスの自然の豊かさを象徴するような動物が確認されましたので、ご紹介したいと思います。

施工後は、早速2月末にヤマアカガエルの卵塊一個ずつが二つの池に産み付けられていました。ヤマアカガエルは、かつて多摩丘陵には沢山棲息していたらしく、料理店にも普通に出ていたとのことですが、現在は東京都の準絶滅危種となっています。両生類は移動力にも乏しいの

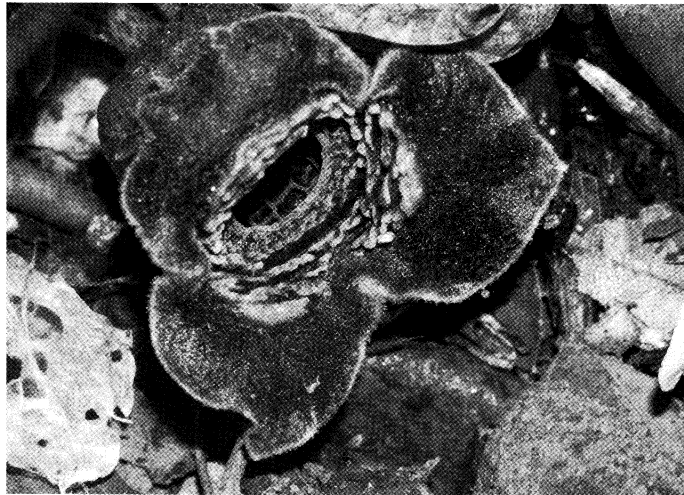


滝坂湧水

で、繁殖場所となる池が失われると、致命的です。保全に努めようとするば、優先的に守っていかなければならぬことは、間違いありません。両方の湧水には、今のところホタルは出ていません。自然発生してなるところにホタルを導入することには、様々な意見が出てきそうですが、



大谷戸北湧水



タマノカンアオイ

その餌となる巻き貝のカワニナなども自然に見られるのは嬉しいことです。また、水を求める鳥たちが一日中見られるようになりました。シジュウカラ、ヤマガラ、エナガ、ジョウビタキ、メジロなどです。オニヤンマらしいトンボのヤゴも見られました。サワガニも増えているという印象を受けます。夏の間、沢山の脱皮

殻を見つけました。滝坂湧水の回りでは、周辺の保全に伴い、固有種のタマノカンアオイ(絶滅危惧Ⅱ類(VU))の個体群が回復し始めています。また、エビネ(準絶滅危惧)やフデリンドウ、ハルリンドウなどの希少種も見られます。実は、滝坂の池は、富栄養化のせい

か、たびたび臭ったりボウフラがわいたり、という問題が出ていました。ヤマアカガエルのオタマジャクシがいる間は、それが有力か、たびたび臭ったりボウフラがわいたり、という問題が出ていました。生物が環境を浄化する力というのは、計り知れないものであるというところを実感しました。

機物を食べてくれるらしく、かなり水がきれいなのですが、7月までにカエルになって上がってしまうと、気温の上昇もあって、水が汚くなってきました。迷いましたが、急場しのぎでクレソンを移植し、近隣からホトケドジョウを導入した後は、数日で水がきれいになってきました。生物が環境を浄化する力というのは、計り知れないものであるというところを実感しました。

## 第22回 白門経友会

### 定期総会のご案内

1. 日時 6月2日(土) 14:00 開会
2. 場所 中央大学多摩キャンパス 7号館 1階(予定)
3. 14:00 定期総会
  - ① 2011年度事業報告
  - ・決算報告
  - ② 2012年度事業計画
  - ・予算案
  - ③ その他
4. 14:00～16:10 記念講演
 

講師 大須眞治 教授
5. 16:30～18:30 懇親会
 

懇親会費 7,000円

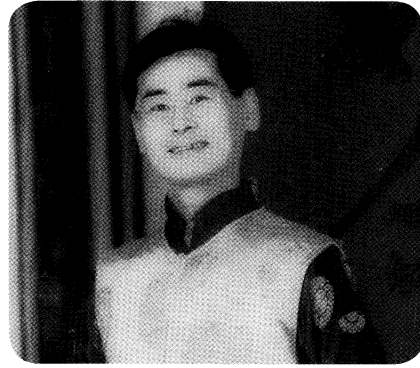
但し ゼミ学生は無料です。

13:00より幹事会を開催いたしますので、役員の方は13時迄にご参集下さい。

え、あの先生が！シリーズ⑩

## 中国研究者からの「ご挨拶」

中央大学経済学部教授 土田 哲夫



こんにちは。

私は一九九八年に本学経済学部に着任し、以来、中国語の授業をメインとし、演習やアジア史の授業も担当しています。専門は中国近現代史・国際関係史で、最近は、日中戦争期の中国外交と国際世論について研究しています。各種授業も研究も中国に関わることばかりとなります。

自分がどうして中国に関心を持つようになったのかを振

り返してみると、それは書物を通じてでした。中学生の頃から家にあった中国古典の入門書や世界史の講座ものなどを読むうちに、次第に中国の文化と歴史への関心を強めました。高校時代には、気に入った漢詩を暗唱したり、『聊齋志異』のお化けの話を読みふけったり、アジア遊牧民の話に想像をふくらませたりと、すっかり中国マニアになっていました。

大学に入ってから中国語及びアジアの歴史・社会を本格的に学び始め、また時事問題、国際関係にも関心を抱くようになりました。当時の中国はようやく文化大革命の混乱に終止符を打ち、改革開放路線に舵を切ったばかりで、中越戦争に続いて中ソ関係が緊迫するなど対外関係も不安

定でした。いったい、豊かな文化と歴史の遺産を持った伝統中国の王朝体制はなぜ崩壊し、どのようにして共産党体制へと変わっていったのか、なぜ中国大陸と台湾は分断され対立しているのか、中ソ両「社会主義」国はなぜ対立しているのか。このような自分にとつての謎を解きたい、そのためには古い時代の歴史や文化ではなく、近現代中国の政治変容及びこれと関わる国際関係を本格的に勉強したいと思ひ、大学院では国際関係論のコースに入り、また中国の大学にも留学しました。

留学先は南京でしたので、「あの事件」の起きた町に行つて大丈夫かと心配されましたが、特に日本人だからといって不愉快な思いをすることはなく、よい友人を作ることができました。研修目的の交換留学生でしたので、あまり授業に出る必要はなく、もっぱら図書館や文書館での資料利用に重点をおきました。文書館では、崩された手書きの毛筆文書を解読するのに苦労しながらも、史料の中から浮かび上がる歴史の世界に引き寄せられました。また、夏休みなどには各地を安価な鉄道、バスを使って旅行し、中国の広さと多様性を実感することができました。中でも思い出に残っているのは、南京から新疆、さらに砂漠とパミール山脈を越えてパキスタンまで全部陸路で旅行したことです。留学に出たおかげで、生来出不精で引つ込み思案の自分がさまざまな体験をし、視野を広げることができました。思っています。

大切な紙面につまらない思い出話しを書き連ねて恐縮です。

私自身は、中国研究といつても近現代史の一部を研究しているだけですが、本学には中国の歴史、文化、経済、そして日中関係などに通じたすぐれた先生方が多数おり、多くを学ばせて頂いておりま

す。また、刻々と変化し、めざましく発展する中国の経済社会の状況については、ビジネスの第一線にいる方々の方がお詳しいと思います。現地事情に通じたOBの方々には、ぜひご教示を賜れば幸いです。

## 編集後記

母校の多摩校舎も間もなく桜の季節を迎えます。多くの学生が巣立って行き、又、多くの新入生が集まって来ます。そんな当たり前の春を昨年は迎える事が出来ませんでした。震災からの復興は思うように進んでおりませんが、次はもっと明るい春を迎えたいですね。

2012年 3月20日 第47号  
 発行 白門経友会常任幹事会  
 発行人 白門経友会編集委員長  
 鈴木 秀 男  
 〒192-0355 八王子市堀之内817番地  
 鈴木 様 方  
 TEL 042 (676) 8266 (代)  
 FAX 042 (674) 8668  
 E-mail: dome88@themis.ocn.ne.jp  
 郵便振込口座 00180-7-753686